水圏環境教育研究誌投稿規定

平成30年3月15日改定

１　投稿は，日本水圏環境教育研究会会員に限る。

２　本誌は，本研究会定款に示される研究，即ち，「⑴　水圏環境教育ならびに研究に関する事業，⑵　水圏環境教育研究誌の発行」を推進するものである。

３　本誌は，「原著論文」（水圏環境教育学に関する学術論文）および「資料」（水圏環境教育学に関する基礎的データや水圏環境教育の実践･研究に関する情報の提示）を収録する。投稿の際には，収録を希望する分野を申し出る。なお，本誌では，「原著論文」および「資料」を「論文」と総称する。なお，規定枚数は8枚までとし，100部の別刷を購入することとする。なお，別刷代金として20000円を申し受ける。それ以上の超過分については，1ページにつき5000円を申し受ける。また，別刷を100部以上求める場合は費用を別途申し受ける。

４　投稿に当たっては，以下の査読者を2名推薦することができる。

１）原則として大学･研究機関に勤める現職の会員を1名，２）幼稚園，小中高等学校等の教育現場ならびに児童館，水族館，博物館等における教育担当者，都道府県等における水産指導普及員等の現職会員を1名とする。

５　原稿は，研究会ホームページに掲載したテンプレートを使用することとする。図･表・写真は本文中に挿入し，そのまま版下となり得るものとすること。図・表・写真は鮮明なものとする。

６　本文は「である」調で横書きとする。また，原則として当用漢字および現代かなづかいとする。読点は「，」，句点は「。」を用いる。引用文献は，文中の該当箇所に１），２）の上付き文字を入れ，論文末にまとめる。その他，論文の書き方については別に定める。

７　原稿は常時募集し，審査を経てのち発行する。

８　投稿原稿には投稿票を添付して編集委員会にメールで，原稿と投稿票を送付すること。その際，件名は「水圏環境教育学研究誌」とする。

９　掲載された論文の原稿（電子媒体，図版，写真等を含む）は返却しない。

10　本誌掲載された論文の著作権は，日本水圏環境教育研究会に帰属する。

〒108−8477

東京都港区港南４−５−７

東京海洋大学　佐々木研究室気付 一般社団法人日本水圏環境教育研究会「水圏環境教育学研究誌」編集委員会hypom@goo.jp

水圏環境教育学研究誌の書き方

平成25年7月11日改定

１　論文の構成

　原稿はワープロやパソコンを用いてA4判余白上25mm,下23mm,右15mm,左15mmとする。表題、英文表題、著者名、英文著者名、コレスポンディングオーサーのe-mail, 所属機関名，英文所属機関名、アブストラクト和文（400字以内）またはアブストラクト英文（200字以内），キーワード（3−5文字）または英文キーワード（3−5文字），Ⅰ　はじめに，Ⅱ　材料と方法，Ⅲ　結果，Ⅳ　考察，謝辞，[引用文献]を含むものとする。

３　表題

　簡潔な表現とする。表題のフォントはゴシック体14ptとする。

４　著者名

　連名のときは、和文では著者名を「・」で連ねる。英文著者名は、2人の場合は「and」で結ぶが、3名以上のときは著者名を「，」で連ね、最後は「and」で結ぶ。英文の順序は名（first name）、姓（family name）の順とする。姓の2番目以降の字はスモールキャピタルとする。

５　所属機関名とコレスポンディングオーサーe-mail

　所属機関名とコレスポンディングオーサーのe-mailは著者の後に（　　）で続ける。両者はカンマで区切る。

６　要約

　要約は著者名のあとⅠ行開け，和文要約は400字以内，英文要約は200語以内で作成する。図表や文献の引用はしない。英文要約、和文要約および本文の内容をよく一致させる。1マスを空け，４２文字×１０行以内とし，見出しゴシック10.5pt，本文は明朝体10.5ptとする。

７　キーワード

　キーワードは和文，英文それぞれ３−５語以内とする。１字目をキャピタルとし、「，」で連ねる。

８　続いて見出しは，Ⅰ　はじめに，Ⅱ　材料と方法，Ⅲ　結果，Ⅳ　考察，謝辞，[引用文献]の５つとし，見出しはゴシック10.5pt，本文は明朝体10.5ptで記入する。見出し以降は２段組２１文字とする。本文は，明朝10.5pt，Ⅱ材料と方法以降は１行空けてから見出しを始める。

９　図表

　図表番号はアラビア数字の連番とする。表の書き方は第１行目の上下にそれぞれ１本，最終行に１本線とする。フォントサイズ９Pとする。

１０　引用文献

　引用文献のレイアウトについて，1）のように半角数字と半カッコとし，１マス空けて著者等を記入する。雑誌は著者：「題名」，学会誌名，巻−号，ページ数，発行年．とする。単行本は，著者：「題名」，単行本名，編者，ページ数，出版社，発行年．とする。前掲論文の場合は4) 1) 前掲論文，350−360．とする。

1)　小林麻理：「大森ふるさとの浜辺公園を活用した水圏環境教育の有効性」，臨床教科教育学会誌，8-2，21-29，2008.

2)文部科学省：「新しい学習指導要領」，

http://www.mext.go.jp/a\_menu/shotou/new-cs/index.htm (参照 2009-12-2)

3)　佐々木剛：「ワカサギから学ぶ」，魚類環境生態学入門，西源次郎・猿渡敏郎編，175-189，東海大学出版会，2004．

4)　1) 前掲論文, 22-23.

10)　小林辰至：「思考力・判断力・表現力等をはぐくむ理科の学習指導」，中等教育資料，891-8，10−15， 2010.